

保育を積み重ねること

—堀合文子先生四歳児の保育ビデオから—

関口はつ江

前回（二〇二巻一月号）堀合先生の三歳児の保育ビデオの一端をご紹介しました。自分たちで遊ぶ力が育つよう、遊びのための要求を殆ど無条件に受け入れ条件を整える、子どもの求める心を大切に十分に手をかけて世話をしながら、正しいやり方を行動として伝える、人として大切なことは逃さず教える、きめの細かい保育です。

一見過保護とも見られるような、そして保育者からの言葉かけは極力控えた年少組の保育が、次のどのような育ちとなって表れているか、さらにこの年齢に合わせた指導はどのようにしているのか、二年目を追跡したビデオ（春・秋編二巻）が完成しました。まとめた形で一部をご紹介します。

生活習慣が生活が自分のものになりつつある

先生が手を添えて靴を履かせたりコートを手がせていた人が、登園からコートを掛ける動き一つ一つにも落ち着きと自信が見える（写真1）。遊んだ後の物の始末が実に丁寧いきちんと出来ていて驚くほど（写真2）。追いかけてごっこで物陰に隠れたお子さんが弾みで傍のくず入れを倒しても、立ち去りながら当たり前のようにひよいと直して走り去る。

問 「縄をきちんと縛ったりしていますね」「身の回りの世話は何歳までやって上げますか」

答 「言葉で言ったり指示をするよりも、私がやったことをその通りにやっているのです。私がやるのを手伝ったり、きちんと縛った物を籠に入れるよう頼んだりしたのです。」

「身の回りのことはまだこの時期はちゃんとは出来ていません。自分でやった人にはさせますが、やらない

人には無理にはさせません。やりなさいって言えばやるけどそれは受け身でしょう。やって上げることはそれを見ていますから。」

一人一人の遊びから響き合う遊びへ

誰かが始めた遊びを受けて、自分の遊びが生まれそれが行き来して続いていく（写真3）。

例えば一人の子が床に広げたフープは、後から通る子ども達によって上手に遊びに生かされるなど、自分中心に生活しているようだが、周りをよく捉え、考えながら自分の遊びに取り入れていることが分かる。二人でやっていた『なべなべそこぬけ』は傍でうろろうろしていた子をいつの間にか加えて四人になっている。電車ごっこでは（写真4）リズムを合わせるために何度も何度も声を掛け合って繰り返しながら同時に遊ぶ。揃うことの喜びを自分たちで味わっている。そして互いに先頭を交替して譲り合って遊ぶ。

問 「見えないところで遊んでいるお子さんが気になるりませんか」「よく譲り合って仲良く遊んでいますね」

「絵本を読んで上げるときなどはどのようにしていますか」

答 「年少組一年経って私もお子さんも互いに信用して、こんなふう遊びをする、と分かって来ています。人をぶっつけないとか分かっていきますから。」

私が一年間やってきたことがお子さん達の中に入っているのだと思います。」

「こういう生活（遊びの）のこの時期になると、一人に本を読む時声を大きくして読むと、絵を描いていてもままごとしていても、聞いているだろうと言うことを考えて、意図的に声を大きくすることもあります。聞きたければ自分の生活をしながら聞いている状態になっていきますから。年齢が小さい時はわーっと寄ってきてしまいますが。」

自分の欲しい物や活動のイメージが確かになる

朝の保育室の環境設定が変わり、遊具が片づいた状態になっている。棚に電車やミニチュアの家など作ったものが飾ってある。一方でちょうちよの羽を着けて動いている女兒のために先生が音楽をかけるが長くは続かない場面がある。

問 「部屋の遊具の置き方を変えたのは？」「いろいろな作品を作るきっかけは？」「何を作りたいか、したいかはつきりイメージをもって先生にいいいますか」

「音楽はお子さんが求めたのですか」

答 「三歳児の時は遊具を出して置きましたが、いつも出してあるとそれで遊ぶ習慣の人がでてしまう。それをやらないと先に行かないようになってしまふので、片づけた状態にしておいて自分で考えて遊んで欲しいし、その時期になっています。」

「作る物は私が作りましょうといったものは一つもあ



▲写真1 コートを掛ける動きに落ち着きと自信が見える



▲写真2 遊んだ後の縄をきちんと縛る

りません。お子さんから言ってくるのです。一学期は何していいか分からない状態もあります。そういう状態が分かれば聞いてあげる。「あれと同じ？」など。それで、自分で考えなければならぬ、自分で決めなければならぬと思うようになるでしょう。真似でも、自分の意志で「あれ」といったのだからそれでもいいと思う。でも次にはあなたの本当に好きなことか？ と聞いてあげたり。イメージがあつてやりたいことがある時、それを描いてやると一生懸命やる。気になる時にはもう少しお顔きれいにしないと可哀相だからと端を少し塗ってあげたり。」

「大人の意識が先に立ってやろうとすると続きません。ちようちよはそれになりたいだけに、大人として欲を出して音楽をかけて上げてしまいましたね。」

好きなことには活動が長続きし集中する

お面や日傘など遊びに使う物の製作に長い時間取り

組み、根気よく最後まで完成させています。長いときは午前中一杯使うお子さんもいる、とのこと。

問 「最後までできちんとやっていますが、途中で止めてしまうお子さんにはどうしますか」

答 「途中で止めてしまうお子さんには『ここまでできたわよ』って作ってやる。すると『あつ、さつきのができた』って思うでしょうね。最後までやらなきゃ駄目ってそういうこといわなくても。あれもこれもやりたくて気が散る時期でもあるから『また後でやっつね』といっておくこともある。その時やらなくても分かっていきます。」

集団（仲間）とつながる気持ち

強くなってくる

片づけは先生が一部の子に声をかけるといつの間にかみんなが一緒になって力を合わせてやっている。仲間に入りにくいYちゃんも先生が一声かけるとみんな



▲写真3 誰かが始めた遊びを受けて自分の遊びが始まる



▲写真4 声を掛け合って揃うことの喜びを自分たちで味わっている

の中に入るようになっていいる（写真5）。お弁当の前、誰からともなく「大きな古時計」を歌い出し、大合唱となりとても楽しい一時がくり広げられる。

問 「集団に入りにくいお子さんにはどうしてますか」
「古時計の歌は先生が教えたのですか」

答 「すぐにこない人にはここあいているわよと言っておくと入ってくる。無理矢理連れてこなくても。来たら『よく帰ってきたわね』って褒めてやります。」

「あの歌は大きい組みの人が歌っているのを聞いてきて覚えたのです。私が教えようとした歌は覚えてくれなくて、自分たちが好きで歌いたいのね。」

先生の願いを根付かせるために

問 「遊びの誘導はしないのですか」

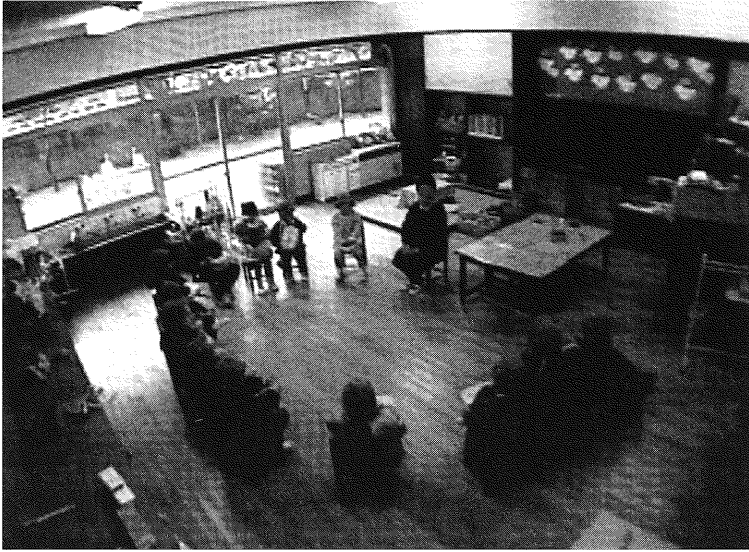
答 「あれをしたら？ 」と言うようなことは、言っただげたいけど言わないように我慢しています。自分で考える力を引き出した方がいいから。言ったらこっち

を向いてしまうから。四歳ではまだ本当に夢中でやる遊びにはなっていないので、まわりのこともお友達のことも気になるし、私のことも気になるし……。」

問 「剣を作って遊ぶのは危険ではありませんか」
答 「剣については考えましたが、危ないから真似だけねって、約束する。テレビを見ているからやりた

い。でも見た通りをとってしまおうと将来心配だから、その怖さを伝えなければ。」

保育の基本は変えないで、子どもの状態をよくみて、働きかけの切り口とレベルを変えていることがよく分かります。子どもの次の段階でのよりよい行動につながるためのかわり方に心を砕くことで、子どもの側には「気付かれないように無理のなく」伝わっていて、安定した成長が図れているのだと思いました。先生が最も大切にしている「心」のつながりは先生と子どもから、子ども同士へと広がりつつあることも見



▲写真5 仲間とつながる気持ちが強くなってくる

えてきました。

今の感受性の鋭い、敏感な子どもにも応じるためには、「保育者は全く気が抜けない」こと、真剣に向かい合うことで確かに育つことが見えてきたと思いました。

(十文字学園女子大学)

堀合先生の保育ビデオ 三歳児編、四歳児編完成(五歳児編制作中)

問い合わせ 雑司ヶ谷幼稚園内実践保育研究会(電話・Fax
〇三―三九八七―三五三七)